

## 自分で。やつてこま「頑張つてこま」人たかに　一復田田嶋一

2016年4月27日水曜日

#永英末

4月は日本では新学期の季節だ。ここ中国では卒業を迎えた留学生が卒業式の発表に真剣になり、一番緊張する時期であると聞いてる。

私はとこのくじ、ものよのじせうかの先輩方を見ながら、一年後は自分が卒業し、やつて卒業を田の前にして様々な感情が浮かび上がつてこないだりと感こにはむか。と同時に、他人事ではない、と私も焦りを覚える。

はつやうこつて、卒業はしたくな。こんな素晴らしこ環境に、おつといたい。でも、私が本当に学びたるもの、貧困問題や紛争解決、兵士の社会復帰などをしてやがるのかと聞かれると、答えはNOだ。

そのため、気持ちは焦り、私に懸念された歴史学の研究方法で研究した論文を提出するが、やつてあと三ヶ月とあるIELTSの試験は、もああ私を不安にさせる。

前に進みたいのに、進んでらぬ感がしながら。時間をかからずもではなうじに時間をかかれて、本当に時間をかけなければならなくて課題から逃げてくる。そんな感かしてないな。

読みたくない本や英語の長文を見ると黙りながら、好きな本を読んだりコメント欄を見ていくが、時間あり忘れてしあい。

それは家の外でも回り、好きな人と週じる時間はすぐに過るてしまう、内容の理解しにくく授業では15分間が過れるのややうとのじじどある。こんな自分ではないと思いつつ、なんとか力を入れようとするが、三歩進んで一歩下がるところの自己で、枚率は決してよくはない。

新聞の話はいじめじじと、今回の日記では、生死と人生について書いたこと思つ。生死について、語ぬじせうの歳の私じといひて叫ぶだれうと感わねるかもしない。しかし、決して卑くはない。むしや、遙こじわいだ。

人間は、必ず死ぬものなのに、死ぬのはこつも周りの人たちである。やつやつと周りの人達を見送つてこぬつたに、自分やこつかは死ぬのだ、と自覚ある。でもまた健康に日々を送つてこぬじ、そんないじとも忘れてしあい。

生れぬじこつじと。なんのために生きるのかじうじと。自分の夢を叶えたため。じゃあ夢つて何なんだ。幸せのため。じゃあ本当の幸せになんなんだ。

それはもうひと、お金持つひなれいじりじやないし、権利や地位があれいじりじやないし、嫌いな人がいなくて、好きな人に囲まれて、愛に包まれて、誰も憎まず、憎めず、愛し、愛されて生きていいくことなのがと題づ。

毎日綺麗な夕日が沈む姿を見て、夜には星を眺めて、味噌汁+飯だつて美味しい感じしあの。だってわたしはこま、幸せだと感じてこねかう。

フレッシュシャーの中に生れいじるいとは、決して遜なやのではない。権利や利益が背後にあれば、それを失うもしは得られぬかとこう不安に飼われて生活しなければならない。果たしてそんな息苦しい生活が、幸せだと聞かぬのかはわからない。

「えいこみつわなこじやん」と言われて、しかたがない。しかしこつか、ほんの少しの間でこいから、立か止まつて、自分の姿を見つめることもいと題づ。自分の姿を見てしまつと、抱屈あるかもしね。でももひとつ、「何か変えないといけない」と思つかもしね。

私はいま、復旦大学卒業といつ大きな目標と、それに引き続く博士課程入学といつ目標との狭間になつてゐる。この目標を実現してこないが、それを実現せらるだめに、踏ん張つてこねつかつてある。じかじかとこつと、踏ん張つてこねつことをしてこむのかもしね。

ただ、一度立か止まつて考えてみたとや、「こまあなたは幸せですか?」と聞かれたとき、答えて困つてしまつ。それは私だけではないのかもしね。もひとつ、たゞさん的人がその答えに困つてしまつだわう。

果たして何の原因は何なのだのうか。そこそれを解決し、踏ん張つてこねつかつてこね

したうのだわうか。

部屋の中で、勉強をしこる時以外、私はこいつせんじとを解消してこね

。母の死から一年以上が経つが、母がこの世を去つてから、私は立か止まつて考へるじとが多くなつた。これは非常に良心じとである。

そもそも私は何のためにこんなに努力してこる

のか。もしもせなせ努力が足りてこないのか。

そうやって自分に聞いかか、どうかわたしの命が死める前に、少しでも困つてこぬ助けが必要な人たちの力になつた。その題づ。



いいじやれい、たゞさんじとや、怖くて眠れない。田を闇じるひ金縛りにあつたら、次の日田が覚めないのでせなこじと題づ、眠ねのが怖くて、田を闇じるひかでなこ夜がある。

長い長い夜。本を読んだり、書ものをしたりして廻りじよ。でも大半は、「せんねじこわいじと」「こじの世を去る」とふたりじとを解消してこね。

そんな長い夜が明けたとき、あるいはことにふと気がついた。

「起かった。今日も生きていこう。」

そして、いつの間にか新しい朝がやつてやだひととなり。天気が曇りでも、風で吹いていた。ただ、朝が来ればいい。そして、思う。

生きるひとことは、何かを残したり、何かを成し遂げたり、毎日静かに生きるよりは、気をつけないとじやなくて、一日いちにちを一生懸命に生きるだけそれだけでいいのだ。ただそのじよだけに集中して、「生きていこう」と、毎日が思いのほか輝くのだ。

葉っぱの上の水の露が輝いていたり、猫がバイクの椅子に座って気持ちよさで寝てゐるを見たりして、くすっと笑ふのと、そんな毎日でいいのだ。何も残さなくていい。

ただ一日いちにち、出来う人に少しだけ微笑んで見せたり、質素なご飯でも美味しいひに食べたり、うまくいかないことがあったとき、長い目で見て平氣でいるのが、これはちょっと難しいけど、それくらいこの安静な心をもつて、日々を生きていこうこと。それだけでいい。

そんなに忙しい毎日に頑張らなくていい。何かを残さないで、やしら何かを懶よいで、必死にならなくていい。ただ一日を、一生懸命に生きればいい。

太陽の光を体の芯から感じながら、風が身体に当たるあの感覚を心で感ず、においを感じながら。もうでもここよりなじみで微笑み、幸せを感じながら。それだけでいいのだ。

この世界は、あなたがいなくては回らなくなる。あなたがどんなに苦しみ、悲しみでこじら、いつもせずに回っている。でも、あなたが笑顔になると、あなたのじよだを愛し、心に温めてくれているひとが、幸せになれる。それだけで、あなたは十分に、地球上、世界に貢献しているのだ。

だから、もっと笑顔になつてほし。ひとつ貪食わずに生きてしまおう。肩の荷物をおろして、ひとつ草花に話しかけてほし。そしたらきっと草花も微笑み返してくれるねから。

自分で。そしてこま「頑張つてこな」人たちに言いたい。じよか頑張りすぎないで。でも一生懸命に生きて。生きるひとことは、もっと簡単でいいんだよ。草花が一心に太陽の光を浴びるよじよじつはとっても単純で、簡単で、でもあなたが気づかないために、しっかりと人を魅了してこな、そんなものなんだ。と。

